

～がんばる船高生～ **ATTENTION!**

第63回 バドミントン部のホープ 宗像恭吾さん・小石沢大輝さん

今回の頑張る船高生は、船引高校バドミントン部ホープの宗像恭吾さん（1年、船引中）と小石沢大輝さん（同）です。2人は高校からバドミントンを始め、8月に行われた県中地区学年別大会バドミントン競技（初心者の部）で優勝・準優勝の成績を収めました。

今回は、船引高校バドミントン部での活動や大会についてのインタビューをご紹介します。

Q なぜバドミントンを始めようと思いましたか？

小石沢さん 体育の授業でバドミントンをしたときに「楽しい！」と思って部活に入りました。今もとても楽しいと感じています。

Q どんな練習をしていますか？また、どんなことを意識して練習していますか？

宗像さん 最初のころは、素振りやフットワークなどの基本的な練習が多かったですが、最近はノックなどの厳しい練習が多いです。常に試合を想定して練習し、どんな球でもとれるように頑張っています。

Q バドミントンのおもしろいところは何ですか？

宗像さん 相手とのかけひきがおもしろいです。ただシャトルを打っているだけでなく、相手の考えていることを予測しながらシャトルを打ち、相手の裏をかけたときにはとてもうれしい気持ちになります！！

小石沢さん 試合を通して自分の実力が上がっていることを強く実感できることがおもしろいです。特にシングルスでは試合に勝ったときの達成感も最高です！！

Q 大会で一番印象に残っていることは何ですか？

宗像さん・小石沢さん 一回戦はとても緊張しました。周りの強さが分からないので、試合に臨む前はすごく不安な気持ちでした。とても緊張したのは、自分の強さに自信がなく、「負けるのでは？」という気持ちだったためと考えています。印象に残っていることは、一緒に練習しているメンバー同士で決勝戦を戦えたことです。学校の体育館とは違った雰囲気での試合ができ、とてもよい経験ができました。また決勝戦で戦えるように、これからも一生懸命練習したいと思います。

Q 船引高校バドミントン部はどんな部活ですか？

宗像さん・小石沢さん 勝ち負けにすごくこだわっているチームです。本当にみんなが負けず嫌いで、練習の中の試合でも、部員同士で熱く熱く戦っています。また、先輩・後輩関係なく仲が良いのも魅力です。

Q 今後の目標は？

宗像さん 日本一になりたいです！まだまだバドミントンを始めたばかりですが、毎日の練習をしっかりと積み重ねて、一歩ずつ目標に近づけるよう頑張ります！

小石沢さん シングルスで県大会出場を目指します！自分の実力をしっかりと磨いて、より大きな舞台で戦える選手になれるよう頑張っていきます！！



▲左から宗像さん、小石沢さん

◆夢を育む講演会を実施いたしました！！

10月5日に東京オリンピック金メダリストの水谷隼さんをお招きし「打ち返す力」と題してご講演いただきました。東京オリンピック混合ダブルス準決勝でドイツペアに大逆転をした時は、負けを覚悟した中で「今まで練習で取り組んできた当たり前のプレーを当たり前に行う」ことが勝利につながったと教えていただきました。長い日々の積み重ねこそが素晴らしい結果につながるというお言葉が講演の中で繰り返され、生徒たちの心にも響いていました。また、14歳でドイツへ卓球留学した時の覚悟や海外で感じた思いなどを聞くこともできました。大きなリスクを感じながらの留学ということでしたが、「何事もリスクを考えると成長できない」という水谷さんの言葉の中に、これまでの栄光の源を感じることができました。水谷さんからいただいた言葉をかみしめて、生徒一人一人が自分と重ねて考え、今後の人生に生かすことができたらいと感じた講演会でした。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<https://funehiki-h.fcs.ed.jp> mail...funehiki-h@fcs.ed.jp



感謝の月



Deanna Stout
ディアナ・スタウトさん
(アメリカ合衆国
ミズーリ州出身)

田村市に来て1年目

毎日の仕事を終わらせることに集中していると、私は感謝することの大切さを忘れてしまいました。日曜日は休息を取り感謝する日だと思っていますが、日曜日が来るまでに疲労が溜まると、食事の準備をしてテレビを見ることぐらいしかできません。また、その週に必要な用事が全部終わっていないと、その時間さえなくなってしまう。感謝する時間があるはずがありません。休息の時間がなければ、月を、頂いているものすべてに感謝するために使うとても重要なことです。栄養を与えてくれる食べ物、清潔な水、住居などは毎日神様から頂く祝福です。日によっては、褒められたり、職場でお菓子をもったり、仕事を手伝ってもらうこともありますが、頂く祝福



に感謝することを忘れてしまうことがよくあります。11月のアメリカの主要な祝日は「感謝祭」と呼ばれていて、感謝を捧げる日です。「感謝祭」は「ピルグリム」と呼ばれるヨーロッパからの移民の集団を歓迎したアメリカ先住民の部族に関する物語に基づいた伝統として始まり、この部族は穀物を育てるのに役立つ情報を移住者たちに提供したと信じられています。1621年のピルグリムの最初の収穫はとても豊富であったと考えられていて、ピルグリムとアメリカ先住民の部族が豊作を祝う祝宴を一緒にしたと多くの人が信じています。この物語が正確かどうかではなく「最初の感謝祭」の伝説は、感謝を捧げて愛する人たちと祝宴を楽しむ



日となって今も続いています。さまざまな人々が経験した悲劇的な出来事の上に積み上げられた歴史を持つ国にとって、彼らが払った犠牲のためにお互いの祖先に感謝することはとても大切です。日本の人たちが守る伝統には、祝福に感謝するのと同じように先祖に感謝を捧げることがよく含まれています。私を含めたアメリカ人にとって、小さな祝福に対して常に感謝を捧げる文化に触れることは、気持ちを新たにしてくれませ。今年の3月に田村市に来てからは、さらに感謝する習慣が身に付きました。私はこの月に感謝を捧げることを楽しんでいますが、現在日本にいるアメリカ人として感謝祭を祝うことを特に楽しみにしています。

広告欄 Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 総務課 (☎0247-81-2117) へ